

News Letter 第7号

2012年2月1日発行

発行人 主教 加藤博道

編集人 司祭 中村 淳



# いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援



石巻・在宅被災者の方と共に  
(フリーマーケット形式の物資支援)



外国人の子どもたちへプレゼントを渡す  
ため、こっそり忍び寄るサンタ（石巻）

## 出会いから広がる支援の輪

### 仙台圏ベースの働き その1

仙台にはプロジェクト全体の事務局機能と共に支援拠点（ベース）としての働きがあります。主な活動場所は宮城県が中心ですが、関わりの始まりは被災した信徒の援助から始まり、お隣さん、お友だちと輪が広がっていきました。仙台圏ベースの働きの中で志津川、磯山はすでに特集として紹介しました。今回は石巻、室根についてお伝えいたします。



旧北上川中州の石巻市中瀬。左上の円形の白い  
建物は石ノ森漫画館。その右2軒目少し見えに  
くいが旧石巻ハリストス聖堂



修復工事中の室根聖ナタナエル教会

## 石巻での働き①

### 漁業者支援 石巻市北上町「十三浜」

スタッフ 執事 岸本望（北関東教区）

当プロジェクトでは、津波の被害の只中で、生業（なりわい）再建へと尽力されている漁業者を支援しています。宮城県石巻市北上町十三浜に在住の漁業者は、津波により、家族や住宅だけでなく、漁船・漁具・加工設備・漁協建物などの大部分を失いました。

2011年5月頃、石巻市社会福祉協議会を支援している「ルーテルとなりびと」のスタッフより、「石巻市北上町十三浜大指地区の在宅被災者に支援物資が届いておらず、当プロジェクトにて対応されたい」旨の連絡がありました。以来、Sさん宅を毎週訪問し、近隣の在宅被災者数軒分を含めて物資支援を8月まで行いました。



**【昨年12月のわかめの種付け風景。この作業のお手伝いも考えたが、素人にはとても難しいことが分かり収穫のお手伝いをさせていただくことになった。**

**説明文挿入 編集部】**

Sさん宅には、親戚であり、宮城県漁協北上町十三浜支部の運営委員長に6月より復帰された佐藤清吾さんが避難しておられ、物資支援の後の支援方法について、週一回のペースで協議を重ねてきました。当地の漁業者は、そもそも独立心旺盛で「契約講」と呼ばれる自助組織や「漁協」は活動しているものの、家庭ごとの労働時間・作業内容・漁船や器具の仕様は、それ



#### 【地盤沈下により浸水した大指漁港

##### 昨年11月頃の光景】

ぞれ異なるものでした。今回の未曾有の災害を経て、契約講ごとに残った漁船を乗り合いにし収穫を分け合う「協業」を、2013年春のワカメ収穫期までの予定で行い、生業復活（2011年は収穫直前に津波に襲われ無収入）に向けて尽力しておられます。

当プロジェクトでは、生業復活に向けての手持ち資金の積み立てを応援しようと、漁協支部の主催する「わかめ復活支援サポーター制度」を日本聖公会内や各関係団体にご紹介してきました。すでにご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

今、2012年2月末～4月までのワカメ収穫ボランティア派遣に向けて準備を進めています。ワカメ収穫は素人が担うことができる作業内容がある上に、多くの人手が求められています。佐藤清吾さんからは「全てを失って茫然としている中、聖公会さんをはじめ多くの支援者が足しげく訪ねてくれて、前を向いて歩きだす決意が漁業者たちに湧いてきた。いっしょに歩こう！プロジェクトには、本当に感謝している」とのお言葉をいただいています。

#### 保存か撤去かで意見が分かれている巨大缶詰（魚油タンク・石巻）





## 石巻での働き②

### 在日外国人支援

スタッフ 岩本翔太（京都教区）

私は外国から日本に来られ結婚された女性とその子どもたちを含めた家族の方々、避難所におられた方々、震災直後避難所に入らず自宅などで避難生活をされていた方々など様々な方と関わらせていただいています。この様々な方々一人一人にそれぞれの考え方、感じ方、ドラマなどがあり一概にまとめることはできません。

4月頃は避難所の方と在宅避難者の方、双方に様々な問題がありましたがそれは緊急的な問題で現在はその時期を終え、ある程度状況は落ち着いてきた印象を受けます。その証拠に市内のお店の再開、緊急的な支援物資の飽和などがあります。しかし、そのような支援を受けてきた方もいればあまり支援を受けてこられなかった、正確に言うと受けることができなかった方も存在します。その代表的な例として外国

人の方がいます。もちろん、外国人の方でも支援を受けてきた方もおられますが圧倒的に少ないです。自分が生まれた国と言語も習慣も全く違う国で生きて行くこと自体困難ですがこの大規模な災害を経て生活することは大変な困難です。

現在私は様々な国から来られた方と関わりを持たせていただいています。お話を聞いているとやはり支援を得る方法が分からなかったという声を多く聞きます。私は支援とは物的支援だけではなくいつでも助けてくれる、いつでも頼れるというような精神的な支えも重要だと考えます。その為には何度も訪ね、お話をするといった支援が重要です。そして、話していく中で本当にお願ひしたい支援してほしいことが見いだせると思います。私はこのような支援を心がけて活動しています。

## 室根をベースとした働き

（岩手県一関市室根町折壁  
室根聖ナタナエル教会）

スタッフ 山本尚生（九州教区）

室根聖ナタナエル教会は一関市の東側にあり、気仙沼市に隣接している所です。地震の影響で大部分の土壁がはがれ落ちてしまいましたが、大工さんと一緒に壁の貼り替え工事を行った結果、中に入れば見事な山小屋の雰囲気をもつ建物になりました。離れにあるお風呂も中に入

れば、外見からは想像もつかないこれまた立派な北欧風の内装です。

夏には横浜教区をはじめ神戸教区、聖公会神学院やその他の学校関係や青年キャンプが室根を拠点にして気仙沼への活動を展開してきました。秋からはプロジェクトが関わっている



震災後の教会内部（昨年5月）



修繕後のほぼ同位置からの写真

社会福祉法人洗心会の「ワークショップひまわり」へお手伝いに行くために、そこで寝泊まりをして通っています。

最近では気仙沼を中心に活動している団体が集まってつくられた「NPO/NGO 連絡会」に参加し、他団体と協働で一関市に造られた仮設住宅（主に千厩・折壁）と関わっていく動きが始まっています。特に折壁小学校跡地に92戸建てられている仮設住宅は、教会から目と鼻の先なので教会をベースにしていろいろな働きが出来ると思っています。

教会の周辺で出会うおじちゃんやおばちゃん

### 12月の主な動き（仙台圏ベース）

#### ●福島の子どもたちと一緒に

原発事故に伴い、外で遊ぶことができなくなった子どもたちを仙台に招待し思う存分外で遊んでもらおうと計画しました。山形県東根市でりんご狩りを楽しみ、仙台聖フランシス教会の日曜学校にも参加しました。

#### ●志津川プログラム

志津川日本語プログラムが順調に進んでいます。このままいけば今年の3月頃にはヘルパー2級の資格がとれそうです。

#### ●新地プロジェクト

磯山の教会から祭壇他備品を移動しました。1月にステンドグラスも保護のため教区施設に搬出しました。



と話をしていると、半数以上の方から「昔は立教大学の学生さんがたくさん来ていた」とか「あの教会によく遊びに行っていた」「ドレーパー先生（※編集部注 司祭。米国聖公会からの宣教師。室根教会の開拓者）を知っている」という昔話をよく聞きます。話を聞くと「この地域で教会が果たしていた役割は大きかったんだなあ」と思われ、今また室根聖ナタナエル教会に灯りがともり、被災地支援のベースとして用いられていることに強い力を感じています。

#### ●身元不明者慰霊祭

大震災から9か月を迎えた12月11日（日）午後2時半より、仙台市葛岡霊園管理事務所で宮城県宗教学法人連絡協議会による身元不明者ご遺骨の慰霊が行われました。今月は仏教関係者が担当で、曹洞宗の法要によって営まれました。聖公会からは「いっしょに歩こう！プロジェクト」スタッフの松本普兄と、仙台聖フランシス教会の影山博美司祭が参列いたしました。

#### ●仙台オフィスに理容ボランティア来る

仙台市内の仮設に入居されている信徒のOさん（理容師さん）が、散髪奉仕に来てくださいました。クリスマスを控えて身だしなみを整えようかとしていた時だけに大変感謝でした。



「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局

【open】月～金 10:00～17:00 【close】土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル2F

TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321

E-mail: walk@nssk.org

URL: http://www.nssk.org/walk/